

6 番 石 田

6 番、石田照子でございます。

私は、第5次総合計画前期を振り返ってということで御質問いたします。

町が目指す10年後の将来像を定めた第5次総合計画前期基本計画は、平成30年度で5年目を迎え終了します。

平成31年度からは後期基本計画がスタートします。現段階は、前期の成果を検証し、後期基本計画の作成に着手していることと思います。

町の考えでは、後期基本計画でも基本構想は原則見直さない。将来人口の修正は行わずに、5年後の2023年、町の人口は1万1,000人と想定することですが、前期基本計画では重点プロジェクトとして「若者定住・子育て支援プロジェクト」に力を注いできました。それでも前期基本計画が始まった平成26年と比べると4年間で人口は1,049人減少しています。これは平成26年10月から平成30年10月の統計でございます。

この数値は、人口対策を重点的に講じてきたにもかかわらず、結果が出せていないことを物語っており、後期の5年間で、目覚ましい成果があらわれるとはとても思えません。

目標を高く掲げることは重要ですが、後期の5年間の人口フレームを見誤ることは、計画自体に不都合が生じるのではないかと懸念します。また、重点プロジェクトに掲げられた「買い物ができる商業施設の整備促進」では、買い物難民に対する対策がとられていません。

また、重点施策ではありませんが、町の豊かな自然や歴史文化を有効活用し交流人口につなげるには、三保地域の道路が行きどまり状態であることは大きなマイナスです。

そこで、以下について質問します。

1つ目、前期基本計画の検証で見えてきた課題は。

2つ目、現実的な人口フレームの設定をするべきではないか。

3つ目、交流人口増や災害時対応に広域幹線道路網の整備を重点プロジェクトに明記するべきではないか

4点目、買い物難民の対応としての施策を追記するべきではないか。

以上でございます。

議

長

答弁願います。町長。

町 長 それでは、石田照子議員から第5次総合売上客前期を振り返ってについての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の前期基本計画の「検証で見えてきた課題は」についてであります。第5次総合計画後期基本計画の策定に当たりましては、本年度6月に各種委員会の委員や関係団体の役員、公募委員、学識経験者など13名の委員で構成する山北町総合計画審議会に諮問し、来年3月に計画案の答申をいただく予定になっております。

なお、事業担当課において、事業を進捗状況や指標の達成状況の調査を実施しておりますが、前期基本計画に位置づけられた事業の進捗度については、全体平均で約7割、指標の達成率では80%を超えるものが約6割でおおむね順調であるという見方もできます。しかし、中には事業進捗率や指標の達成率が低いものもあるため、原因や課題を整理・分析し、さらに事業実施の根拠も明確にして、修正や廃止を含めて進めていかなければならないと考えております。

御質問の見えてきた課題としては人口減少に伴う税収の減など、さまざまな分野で多岐にわたるため、ここで全てを御説明することはできませんが、例えば（仮称）山北スマートIC周辺土地利用計画の策定や未利用地の土地利用については、もっとスケジュール感をもって推進すべきでありますし、また防災減災への取り組みについては、近年想定外の自然災害が頻発している状況を踏まえ、さらなる強化・充実が必要と考えております。

次に、2点目の御質問の現実的な人口フレームの設定をするべきではないかについてであります。山北町第5次総合計画における基本構想とは、町の10年後の将来像を定め、将来像を実現させるために必要な施策と中長期的な目標を明らかにしたものであります。中長期的な目標でありますので、社会・経済状況に急激な変化を生じない限り、原則人口フレームの見直しや修正を行う考えはありません。

また、基本構想に掲げられた将来人口は近年の少子高齢化の進展を踏まえつつ、良好な生活環境や町の活力を維持していくため、産業振興施策や子育て支援策、定住対策を進めることにより、人口の減少幅をできるだけ少なくしていくこととして、1万1,000人を目標としたものであり、人口の増減を見

込んだ設定ではございません。

なお、御指摘のとおり、人口減少は続いておりますが、ことしは平成26年以降初めて、前年と比較して減少幅が少なくなったという効果もあらわれてきております。

次に、3点目の御質問の交流人口増や災害時対応に広域幹線道路網の整備を重点プロジェクトに明記すべきではないかについてであります。重点プロジェクトは町が主体的・優先的に実施する施策や事業を掲げております。御質問の広域幹線道路の整備につきましては、国や県が実施主体となり進めるべきもので、市町村は関係自治体と連携して、地域の機運醸成や調査研究・整備促進のための組織づくりや国・県への要望・陳情活動を行っていくこととなりますので、重点プロジェクトとしてではなく、分野別計画の中にしっかりと位置づけていきたいと考えております。

次に、4点目の御質問の買い物難民の対応としての施策を追記するべきではないかについてであります。買い物難民とは、一般的に住居周辺に店舗がない、車を運転できないことから買い物に行くことができない、また公共交通機関がないことから生活用品等の購入が難しくなってしまった方々のことを指します。現在、買い物難民といわれる方々が利用できる民間の宅配業者、宅配サービス等はかなりありますが、本町では日常の生活用品等をどのような方法で確保できるか等について、調査する必要があると思いますので、後期基本計画の中に交通手段の確保策や買い物難民の調査、対応策といった内容の施策を位置づけていきたいと考えております。

6番 石 田   ただいま御回答いただきましたけれども、今いただいた回答と重複する部分もあろうかと思っておりますけれども、確認ということで御理解いただければと思います。

  いただいた回答によりますと、前期基本計画の達成率・進捗度ですか。大体全体では7割、指標達成率では80%を超えるということで、おおむね、すばらしい数字ではないかなと思っておりますけれども、その中でも達成率は低いものもあるということで検証しておりますけれども、達成率が低いものというのはどのようなものなんでしょうか。

議   長   企画政策課長。

企画政策課長

お答えいたします。

今年度につきましては、前期計画の全ての事業につきまして、各所属課におきまして進捗率実施状況、それと必要性等の調査を行っております。

その取りまとめた結果、進捗率の低い事業につきましては、例えば現在の行政の実情に合っていない事業等も前期計画の中に位置づけられておりますし、あとは具体的に申しますと行政評価システムの関係、行政評価、御存じかと思うんですけれども、これについて検討するよとということ、前期計画の中には位置づけられておるんですけれども、なかなかちょっと具体的にまだ進んでいないという部分がございます、こういったものが若干低いということ、あと、もう一つ具体的に挙げますと罹災証明発行システムの検討、こういったものもちょっと具体的にまだ進んでいないといったような状況でございます。

議 長

石田照子議員。

6番 石

田

そうしますと、やはり前期はしっかり検証して、達成できていない事業というのが洗い出されているようなんですけれども、罹災証明などというのは、いざというときに、すぐに対応できなければいけませんので、この辺は後期もしっかりと対応できるように検討していかねばいけないと思いますけど、その辺の対応については。

議 長

企画政策課長。

企画政策課長

罹災証明システムの関係でございますけれども、これにつきましても、進捗率が低いということで、担当課においては、引き続き後期計画でも継続して検討していくという位置づけをするようになってございます。

議

長

町長。

町

長

罹災証明については、日本各地で非常に災害が多いということで、町等でも、当然、それに対応しなければいけないということですが、やはり、判定員だとか、いろいろな問題がありまして、非常に人材不足ということで、国のほうはタブレットで撮ったものを瞬間的に判定していくというようなことをやろうとしております。ですから、そういったことも含めながら、見ながら、そういった罹災証明の発行等については、国の動向を見ながらやっていきたいというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。  
6番 石 田 計画の今素案の段階ですので、お答えできる範囲で結構なんですけれども、基本構想は変えないということ、これは軸ですから、ここは揺らいではいけないとは思いますが。今、社会情勢の目まぐるしく変化をしております。その変化を柔軟に対応していかなければいけないと思うんですけれども、新規事業というのを新たに加わるようなことはお考えになっていらっしゃるのでしょうか。

議 長 企画政策課長。  
企 画 政 策 課 長 お答えいたします。  
新たな事業として位置づけるもの、今の段階で何点かあるんですけれども、一つは先ほどもちょっとお話に出たんですけれども、スマートICの関係の土地利用構想の関係、これについては、早急にしっかり位置づけていくということと、あと新たな定住住宅の関係ですとか、それと当然、洒水の滝の散策道ですとか、D52のさらなる活用、このあたりは観光の部分で重点的に位置づけていきたいと考えてございますし、あと現在、新東名の関係で、事務所の跡地等が将来的にどのような活用をしていくのかというようなことも近々の話でございますので、位置づけていきたいというふうに考えてございます。

議 長 企画政策課長。  
企 画 政 策 課 長 済みません、失礼しました。それと、オリンピック・パラリンピックの関係でございますけれども、これについても来年、再来年になりますので、しっかり位置づけてまいりたいと考えてございます。

議 長 石田照子議員。  
6番 石 田 それでは、時代に即した後期基本計画になるのかなと期待いたしまして、次の2番目に移ります。  
現実的な人口クレームの設定をするべきではないかということで、回答のほうでは1万1,000人を目標としたものであり、人口の増減を見込んだ設定ではございませんと回答いただいているんですけれども。これは、ちょっとどういう意味なのか、もう少しわかりやすく御説明お願いいたします。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 第5次総合計画に位置づけております1万1,000人という人口でございますけれども、先ほど町長の答弁の中にもございましたように、目標とする年度の人口を1万1,000人ということを想定して、計画を進めていくというような考え方でございます。

議長 長 石田照子議員。

6番 石 田 いまいち、ちょっとわからなかったんですけども、今私が言うほどでもありませんけど、人口がだんだん減少して、社会自体が縮小社会に入っていますね。これは山北だけの問題ではなくて、日本全体の問題ですので、目まぐるしく変わる社会情勢をしっかりと把握して、私たちが育った昭和時代の右肩上がりの時代は終わりましたので、これを、現実をしっかりと受けとめなければいけないと思うんですけども。

人口統計、山北町の人口統計を見ますと、私のリード文の中でも申し上げましたが、前期基本計画が始まった26年から比べますと、4年間で1,049人減少しております。それに伴いまして、基幹財源であります町税も1億7,430万円減少、それとは逆に高齢化率が上りまして、一人にかかる経費がふえております。このような現実をしっかりと見ますと、また社人研など、あるいは日本創生会議なども統計を出しておりますけれども、それによりますと、これは2040年ですけれども、山北町の人口も20代から39代の若い女性の数も、あるいは15歳から64歳の生産年齢人口も半減するというデータが出ております。

ということは、少子化がさらに進み、減収するということ。財政が減収するということは、自由な執行がなかなかできなくなってくるというような現実があらわれてくるのではないかと思うんですけども。だから、ゆえに目標人口実行フレームというのは、現実に近い数字にしておかないと、町政運営に支障がくるのではないかなと思って、このような、あの発言をしたんですけども。

また、そうしますと、そういったことも念頭に踏まえながら、これは目標としたものではなくて、増減を見込んだ設定だということで、やはり1万1,000人でいくということで確認です。よろしいでしょうか。

議長 長 副町長。

副 町 長 済みません、人口の問題なんですけれども、社人研の関係とかは、もう1万人を切るとか、そういうことです。でも、我々の立場としては、何もしなければそうなるでしょうと。ですから、総合計画をもとにして、各種施策を進めて、そのような形で土地利用なんかも、全部整合性をもって進めて、そして、できるだけそうならないようにする人口の目標は1万1,000人だというふうな形で理解していただきたいと。

何もしなければ、9,000人ぐらいになっちゃうから、目標は9,000人にすればいいって、そういうレベルでのお話ではないということで御理解いただきたいということでございます。結果として、そうなるかどうかは別にして、努力はしていく目標でございます。

議 長 石田照子議員。

6番 石 田 リード文でも申し上げましたけれども、前期でもいろいろ子育て施策、あるいは定住対策を行ってきましたけれども、結果的には今のような現状があるということを踏まえて、私も申し上げているんですけれども。企業もそうですけれども、優秀な方というのは常に先を見えています。東大先端科学技術研究センターの牧原教授は2040年を見据えた自治体の話というものの中で、2040年は高齢化がピークを迎え、18歳人口が半減する社会で行政を回すには、意識改革が不可欠だと言っております。この意識改革をしていかなければいけないのではないかなと思うんですけれども、その中で、基本総合計画の前期基本計画の中で、第4章、町づくりの課題ではというところで人口フレームについてちょっとふれてられるんです。これによりますと人口増加を前提とした考えを転換して、町づくりを進めていく必要があるため、現実的な人口フレームを設定すると。町でも課題として、記述を、しっかり記述しているわけですね。この考えは、後期では踏襲しないということなんですかしら。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 お答えします。

これまでの4次総合計画における人口フレームの話をちょっとさせていただきますと、4次のときには、平成26年を目標として、そのときに1万6,000人というようなことで目標にしてございました。実際の人口は、4次、平成

12年から始まるわけなんですけれども、平成12年の人口が約1万3,600人ということで、4次総合計画の目標年次におきましては、策定時より人口の設定を高目にしてございました。4次が終了いたしまして、5次総の策定に入ったわけなんですけれども、そのとき近隣の市町の総合計画の人口フレームの設定状況とかを見ますと、将来推計人口よりも低目の設定をどこの市町でもしてございました。山北町におきましては、5次総合計画につきましては、平成24年、25年で策定したわけなんですけれども、そのとき、平成24年のときの人口が1万1,700人程度の人口でございまして、ここから近隣の市町の総合計画の人口フレームの関係を調査いたしまして、どこの市町でも、大体、現状より6%から7%の人口減を見込んで、将来人口を推計しているということがわかりましたので、当時の1万1,700から6%相当の700人、これを減少する見込みという形で人口フレームのほうを設定したところでございます。

ただ、そのときの将来推計では、目標年次1万1,000人という推計より、若干下回ってはいたんですけれども、その部分につきましては、先ほど副町長が申しましたように、さまざまな施策の中で人口をふやしていくという考えのもとで、1万1,000人という形で設定したところでございます。

議 長 石田照子議員。

6番 石 田 それは、前期基本計画を立てるときの段階の話なんで、よくわかりましたけれども、それから5年たとうとして、もうそろそろ1万を切るような、ちょっと危ういところに今きている状況でも、前期のときに、その考えをそのまま変えないというのはどうかなというような気もしますけれども、何かあります。

議 長 町長。

町 長 全く私が議員のときに、同じような質問をしまして、基本的には、石田議員の言われるようなことを仮に設定すると、どういうことをやらなきゃいけない、整合性をとるために、学校の数とか保育所の数を減らさなきゃいけない。全てにおいて、全部減らしていく方向をはっきりとしなきゃいけないわけです。それが果たして、町のためになるのかどうかということは、将来的に、合併は、当然、頭の中に入れていかなきゃいけない。ですから、そういったことを今すべきだということであれば、また話は違いますけれども、私

は、できるだけ合併等をしないで、今の人口フレームの中で最大限努力して、そして人口も減ることは仕方がないにしても、それをふやしていける、何と  
いうんですか、キャパシティの部分は残しておきたいというふうに思ってお  
りますので、そういった意味では、まだギブアップしていないというような  
考え方でおりますので、理解していただければと思っております。

議 長 石田照子議員。

6番 石 田 今、町長のお話の中で人口フレームを低くすると、統廃合等も考えなけれ  
ばいけないというようにお話がございましたけれども、何かラインというの  
があるんですか。1万を切ったら、小学校を一つにしなければいけないとか。

議 長 町長。

町 長 そういうのはありませんけれども、実質的に今の山北町の面積とか、ある  
いは問題になっております三保地域の小学校の数がうんと減っている、ある  
いは岸地区の幼稚園の入学者が5名しかいない。こういった現実がございます。  
ですから、そういったような意味で必ずしも、例えば真鶴町は当然1万  
人を切っておりますけど、そういうふうなことでやっております。ですから、  
仮に人口がいくら減ったら合併しなきゃいけないということではなくて、そ  
ういったような方向性を出した先には、それしかないだろうというふうに、  
私は考えております。

議 長 石田照子議員。

6番 石 田 大体わかっているようなわからない気がいたしますけれども。1万1,000  
人の人口フレームというのは希望的観測で、そこまで努力して盛り上げたい  
なという、そういう意思のあらわれということによろしいですか。

議 長 町長。

町 長 一応、住民票がある人数でやっておりますから、税収等にかかわるものが  
そういう人数だということで、現実的には住民票を持っていない方も今、こ  
この4年間では、新東名の関係で約1,000名以上の方が多分住まわれます。そ  
れから、働きに来る方は、あと4,000名ぐらいという。ですから、経済活動と  
しては、当然1万1,000人規模では動いていくと思いますけども、税収効果と  
か、そういったものについては、当然それより下回るということで、そうい  
ったようないろいろな時代の背景の中でどれが一番いいのか、何が何でも、

住民票の数でずっとやっていくということが、果たしていいのかどうかということも含めまして、私はやはり町のかじとりというのは難しいのではないかなと思っております。

議 長 石田照子議員。

6 番 石 田 今、町長から東名の方々が、今1,000人以上住まわれているというようなお話をされておりましたけれども、それはここ2、3年の話で、総合計画は、後期は5年先の将来を見据えていますので、そういったところは余り念頭に置かずに、町政運営をしていったほうがいいのかと思うんですけども。後期基本計画努力目標が功を奏して、人口増に向かうことを期待して、次に進めさせていただきます。

交流人口や災害時対応に広域幹線道路網の整備を重点プロジェクトに明記するべきではないかということで、いただいている回答の中では、これは重点プロジェクトではなくて、分野別計画の中にしっかりと位置づけていきたいとうたっておりますけれども、山北町南北に通る道路が幾つかありますけれども、いずれも通行どめになっていて、今通れない状況にありますけれども。分野別計画の中にしっかりと位置づけていく道路というのは、具体的には何か決まっているのでしょうか。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 現状の前期基本計画の中にも、広域的な幹線道路という形で位置づけをしてございます。個々に具体的な路線名は載せてはございませんけれども、県をまたいださまざまな道路、例えば今おっしゃられたように三保地域のほうで、現在行きどまりの状況になってございますので、そうした道路も含めた中で、位置づけていこうという考えでございます。

議 長 石田照子議員。

6 番 石 田 それでは、その中には山北山中湖線ですとか、山北藤野線は前期のほうに載っておりますけれども、載っていない小田原甲府線なども念頭に入っているということなんでしょうか。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 そういう考えでございます。

議 長 石田照子議員。

6番 石 田 それでは、具体的にふれる前に町長のお考えを一つお聞きいたしますけれども、今現在、北へ抜ける道路が通行どめになっているということは、観光立町山北の場合、非常に致命傷だと思うんですけども。これについて、町長はいかがお考えでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように観光的には抜けていたほうが、はるかに利便性が高いということですから、当然そういうような抜けていけばいいなということは、当然、そのとおりだというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

6番 石 田 平成9年に山梨県の道志村村長のほうから、町長も御存じかと思えますけれども、山北町、道志村間道路建設計画に伴う協力の要請がありました。この要請を受けて、山北町でもいろいろ動いてトンネル事業手法などをいろいろ検討したようでございます。何回か協議会を立ち上げて協議し、国の富士・箱根・伊豆ネットワーク会議広域連携部会参加市町村の広域的な計画構想の打診があったときに、この計画の当初構想を提出したというような過去の経緯があります。

しかし、これが平成19年ごろからですか、立ち消えになって、そうしている間に、道志の関心はリニアモーターカーで橋本のほうに気が向き、都留のほうに目がいってしまって、こちらには目が向かなくなってしまったような経緯があります。

平成9年というと、もう21年前ですけれども、そのときに道志のほうからラブコールを送ってきたわけです。今回は、今度は山北のほうから道志村のほうへラブコールを送ったらどうかと思うんですけど、町長いかがでしょう。

議 長 町長。

町 長 特に事情が相当、当時と変わっておりますし、人口フレームも、今、石田議員がおっしゃったようにかなり変わってきております、お互いに。ですから、そういった中で、果たして、抜けることは本当にできたらいいなということで、我々も強く要望していくとは思いますが、要望していきたいとは思いますが。現実的な話としては、そこのところは非常にハードルが高いなど。

普通に考えて、今、藤野線あたりも拡幅でやって、4年から5年かかるわけです。当然抜くということになれば、最低限、観光バスぐらいが通らなければいけませんから、そうなったときに相当の道路の周囲、拡幅というのが必要だというふうに思っておりますので、私としては、それが先かなというふうには思っておりますけど。目的としてはやはり抜いていただいたほうが効果は高いというふうには思っております。

議 長 石田照子議員。

6番 石 田 町長がそのようにお考えになっているんですしたら、5年、10年の話ではなくて、20年かかるか、30年かかるかわかりませんが、町長がかわっても、トップの顔が変わっても、この計画がずっと押し続けられるというふうなことで総合計画にしっかり位置づけていかなければ、これは20年でも30年でも実現しない話だと思うんです。町がしっかりそういう意思があるならば、総合計画のほうにしっかり明記をして、位置づけていく必要があると思うんです。これは採算性のことを考えても、非常にハードルは高いと思いますけれども。ちょっと恋人同士の関係に似ているような気がするんです。好きな人がいて、相手は全然その気がなくても、積極的にアプローチすれば、だんだん気持ちが傾いてくる。今、道志がこちらのほうに意思が、気持ちがなくても、町長が一生懸命アプローチしていけば道志の村長の気持ちもこちらに向いてくるかもしれないので。まずは総合計画に位置づけて、そしてトップ同士の交渉をぜひしていただきたいと思うんですけれども。町長、その辺いかがでしょう。

議 長 町長。

町 長 町同士がつくれる道路であれば、今おっしゃるようなことは可能だというふうに思っておりますけど。どうしても県、国が入ってこないため。ですから、SKY圏の3県でやっている中で位置づけられた道路が、かつてそのところもありましたけども、それなら事務レベルの中で、優先順位がどんどんついていく中で、後退していったしまったというような経過がございます。

今現在、優先順位としてはどちらかというと、南箱道路であるとか、あるいは、ここのスマートと小田原を結ぶような、そういったようなものが順位

として上ってきておりますので、できるだけ順位が下がらないように、SKY圏で言っていきたいというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

6 番 石 田 順位を下げないためには、国や県の道路構想にしっかり絡んでいかなければいけないと思うんです。そのためには、まず道志村もそうですけれども、山北町も総合計画にしっかり位置づけていかないと、国や県の計画に絡まない。それこそ優先順位が下がっていってしまうと思うんです。ですから、国や県の道路計画に絡むためにも、総合計画にしっかり例えば、（仮称）小田原甲府線というふうに、延伸というふうな形で、しっかり載せるべきだと思うんですが、いかがでしょう。

議 長 町長。

町 長 おっしゃる意味はよくわかりますけれども、その路線だけを協議しているわけではございませんので、全体的な中で、事務レベルで協議して、それらをやっていくということですから、当然、優先順位の高いものについては、我々のほうとしては積極的にやっていく、都合上、優先順位の低いものについては、どうしても後回しになってしまうということは、これはいたし方ないと。例えば、それを最初に持ってきて、ほかのをやらなくてもいいというような、そういうことにはならないわけですから、やはり優先順位の高いものについてはどうしても早くやっていただきたい。今、私の頭の中にある道路で、一番優先順位の高いのは、246の瀬戸バイパスをどうしても、もう1本当初からある片側の2車線でなくて、もともとある複線ということですから、これを何が何でも10年、20年かかりますけど、優先順位が一番最たるものとして、今、国交省とやり合っていきたいというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

6 番 石 田 優先順位はともかくとしても、この道を北へつなげたいという思いが町にあるのならば、246が先になっても構わないと思いますけれども、しっかり総合計画に位置づけて、町のことをあらわさなければ何十年先にたっても、町の思いは伝わらないと思うんですけれども、いかがでしょうか、お考えは。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 小田原甲府線の総合計画への位置づけの関係でございますけれども、実は

第5次総合計画を策定する際に、先ほど、ちょっとお話に出ました小田原甲府線の研究会の関係についてなんですけれども、平成20年度に、一応、研究会のほうは終了いたしました。その際の締め方の関係なんですけれども、実は山梨県側の道志あるいは、山中湖村のほうがだんだん正直な話トーンダウンをしてきてしまったといったような状況の中で、研究会についても、ここで一旦締めようよという形で、一度締めさせていただきます。

それで、その後、第5次総合計画を策定する際に、道志村のほうに、小田原甲府線の考え方について、ちょっとヒアリングを行ったところ、道志のほうでは現在、全然考えていないんだということを確認いたしまして、第5次総合計画からは個別の名称を外させていただきます。

その後、再度、平成28年度に再度道志村のほうに、一般質問が出た関係で確認させていただいたんですけれども、そのときにも現在は全く取り組んでいないといったような御回答をいただきまして、そういった関係で、第5次総合計画につきましては、具体的な路線名では載せていないというのが、現状でございます。

それと、あと現在の道志村の総合計画、平成16年から、ごめんなさい。2016年から2025年の道志村の総合計画のほうにも当然のことながら、小田原甲府線の名称が載ってはいません。

したがって、片方の自治体にだけ、個別の名称を載せることも適当ではございませんので、今回、後期計画につきましても、個別な路線名ではなく、広域的な幹線道路網の整備といったような形で、後期計画に位置づけてまいりたいというふうに考えてございます。

議 長 副町長。

副 町 長 議会同士で、道志村の議会と山北町の議会の議員同士の中で、何とか復活しようという動きは、本当にありがたいと思っております。それを、ますます上げていただいて、そして道志村の総合計画の中で、小田原・山中湖線という名前が名称が出るような形であれば、我々も待っていますし、そういうアプローチは我々も続けていきますので、その辺のところは、逆に何とか行政を動かしていただきたい。向こうのというふうな形では考えていません。

議 長 石田照子議員。

6番 石 田 今、副町長がおっしゃったとおりに、道志村の議員さんと山北の議員同士、今、顔を合わせて交流を図っております。この間のもみじ祭りにも半数以上の方がいらしてくださいました。議員の皆さんは、あそこにトンネルを通したいという熱い思いがあります。ですから、私たち議員同士もその思いを断ち切れることなく、これからも続けていきたいと思っておりますけれども。

今、その当時と変わって、また状況が変わってきています。新東名の関係で今日本一のアーチ橋が山北にできます。あれができると、また観光客の動きも変わってくると思っておりますので、私たち議員も交渉を続けますけれども、やっぱりトップとしての交渉も、ぜひ途切れた交渉を再開してほしいなということだと思うんですけれども。顔をまず、具体的に話が進まなくても、顔を合わせていくうちに、糸口が見えてくるのではないかと思います。

ですから、ぜひ町長もトップ同士でちょっと会談もしていただきたいなと思うんですけれども、そういったお気持ちはあるのか、ないのか、いかがでしょう。

議 長 町長。

町 長 村長には何度かお会いしたことはございますけれども、そういったような中で、隣同士ですので、そういった意味では、これからも機会があるごとに話はしていきたいというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

6番 石 田 昔から山北町と道志村というのは、山を通じて行き来があったようですから、ぜひトップ、町長のトップセールスに期待をして、次に移りたいと思います。

買い物難民の対応としての施策を追記するべきではないかということで、いただいた回答の中では、民間の宅配業者、宅配サービス等はかなりありますけれども、ことし、民間が行っていた移動販売車が廃止になって、三保地域の高齢者や車を運転されない方、大変不便を感じているというお話を伺っております。

そこで、後期基本計画の中にも対応策を載せていただけるというような回答をいただいておりますけれども、具体的に何かお考えがあるのかどうか、

あればお聞かせいただきたいと思います。

議 長 町長。

町 長 今現在、買い物難民ということではなくて、やはり地域的な中で買い物等、いろいろな交通弱者ということで、タクシー券等を三保、清水、それから高松のほうに配布させていただいています。これらを、もう少し拡充していきたいというような気持ちがございます。

やはり、買い物等で移動販売というのものもあるんですけども、実際、松田とか、何か聞いてみますと、最初はいいんだと。しかし、そのうち同じもので選べないと。ということは、やはりお店に行きたいわけですよね。ですから、行く手段を何とか考えたほうがいいんじゃないかということで、そういった意味では、もう少しそういったような買い物難民も含めたところで、高齢者の、例えば免許返納した方も当然いられますから、そういったことも含めて、対応を少しふやしていきたいというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

6 番 石 田 このケースというのは、在宅サービス提供事業者が撤退したケースに、非常に似ているような気がするんですけども。これは、課長が奔走して、他町からヘルパーさんが来ていただくということで、解決をしておりますけれども。高松がそうですけど、三保地域というのは時間もかかりますし、時間がかかれば、ガソリン代がかかるということで、人件費や経費を考えると採算がとれないということで、なかなか民間は手が出せないんだと思うんですね。こういった採算がとれない事業であっても、そこに必要としている町民がいれば、行政としては、やはり手を差し伸べなければいけないと思うんです。このような採算のとれない事業に対して、町はどのようにお考えになっていらっしゃるのでしょうか。

議 長 副町長。

副 町 長 町の事業の中では、採算が必ずとれなければいけないというものはございません。やはり町民の満足度というのは、求めている部分の満足度というのは、これは当然満足度が高ければ、採算がとれているというふうな考え方もできると思います。ですから、その辺のところは適正に公費をやはり投入することも必要ではないかと。何が何でも収入に対して、支出が多くなって、

採算がとれないからやめるということは民間事業者でございませんと、その辺は、町としてはしっかりやっていきたいというふうに考えております。

議 長 石田照子議員。

6番 石 田 それでは、町はしっかりやっていただけるというお答えをいただきましたので、私も幾つか構想を考えました。先ほど町長が移動販売車の場合には、同じものばかりで、いいのは最初だけだというようなお話でしたので、2つ目を申し上げますけれども。既に共和さんがやっておりますけれども、車を用意して、地域の方を商店街に誘導するというような方法ですと、商店街の活性化にもつながると思うんです。商工会とタクを組んで商店街の方同士でプロジェクトを組むかどうか、そういった誘導を町でしたらどうかと思うんですけれども、いかがでしょう。

議 長 町長。

町 長 ぜひやっていただければ、町としても共和地域の例がございませんと、地域でそういうような組織を立ち上げていただいて、そのようなことが可能であるなら、車の手配等を町は積極的にやっていきたいというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

6番 石 田 そうしましたならば、もし商店街の方がもう高齢化が進んでいて、自分たちはできないよというような話になった場合には、大手スーパーにも、そのようなことができるのかどうかお伺いいたします。

議 長 質問を、もう一度お願いします。

6番 石 田 山北の商店街の皆さんがそういったプロジェクトを組んでできなかった場合に、実名を出してしまっていていかどうか、岸にスーパーができました。そういったところをお願いをして、移動販売車のようなシステムをお願いできるかどうかということです。

議 長 町長。

町 長 移動販売車の件は、先ほどお答えしたとおり、むしろこちらへ来ていただくというような方法で、共和は要するに福祉タクシーですよね。ですから、福祉タクシーのようなことを地域でやりたいというのであれば、町は積極的に応援していきたいというふうに言ったので。そしたら、急に何か移動販売

車の……。

議 長 石田照子議員。

6番 石 田 じゃあ、移動販売車はこっちに置いておきます。そういったところが、お  
町 長 迎えに行って、お買い物をさせるというような方法はとれますか。

町 長 ですから、どこに行きたいかは町民の方が決めるのでしょうかけども、今お  
議 長 っしやったような共和の福祉タクシーの運行のような形態であれば、町は積  
6番 石 田 極的に支援していきたいというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

6番 石 田 それでは、交通手段の確保策や買い物難民の調査・対応策を後期基本計画  
の中でしっかり位置づけていくというような回答をいただいておりますので、  
これは、やはり、そこに必要にしている方がいる以上、対応をとらなければ  
いけないことだと思いますので、ぜひ実現をしていただきたいと思います。

最後に、町でもいろいろなアンケートをとりました。そのアンケートによ  
りますと交通や買い物などの日常生活の利便性の向上ということで、交通便  
が悪いと挙げている方が95.4%です。買い物、日常生活が不便という方が  
72.3%、また、別に山北町の魅力を聞いたならば、自然環境、あるいは転入先  
に選んだ理由としては、静かな居住環境だから。自然環境がいいからという  
ようなことが挙げております。これを分析しますと、豊かな自然を守りなが  
ら、日常生活の不便を解消していけば、転出にも抑制がかかるのかなという  
ふうなことが見てとれるわけですが。

しかし、もう社会は縮小社会が到来して、右肩上がりの時代は終わりました。  
人口増も人口がふえることが理想ではありますが、まず、そのよ  
うな対策に力を入れて、転出者を減らして、人口減少に歯どめをかける町政  
運営が今、求められているのかななんて思います。社会が目まぐるしく変化  
しておりますので、町政運営も柔軟な対応、柔軟な意識改革が必要になっ  
てくると思いますので、ぜひ柔軟な基本計画構想になっていただきたいなど。  
今後の5年間で後期基本計画が幸を奏して、豊かでにぎわいのある活気のある  
町に生まれ変わることを期待して、終わりにいたします。

以上です。